

年	組	名前
---	---	----

大分県内の2012年の乾シイタケ生産量は1783トンとなり、3年連続で増加しました。一方、生産者は厳しい経営が続いています。



先月あった県椎茸農協の品評会、2012年は生産量、生産者とも増えたが単価が低迷、厳しい状況を打開するため消費拡大に力を入れる

県産乾シイタケ

生産3年連続増

単価は低迷続く

①生産量が近年回復した背景は何でしょう。

.....

.....

.....

.....

②年間平均単価の下落はここ何年連続でしょう。その背景は何でしょう。

.....

.....

.....

.....

③農家は厳しい状況です。都市圏などに乾シイタケをアピールする方法を話し合ってみよう。

.....

.....

.....

.....

関係団体 消費拡大対策に力

大分県内の2012年の乾シイタケ生産量(概数)は1783トンとなり、3年連続で増加した。1700トン台まで回復したのは18年ぶり。一方、市況は景気低迷や原発事故による風評被害の影響を払拭できず、年間平均単価が4年連続で下落した。生産者は厳しい経営が続いており、関係団体は都市圏などの消費拡大の取り組みに力を入れる。

過去5年間は新規参入などで産振興費(215万円)を前年度より減らす一方、消費拡大対策の事業費(339万円)を増額。東京、大阪を中心に消費宣伝や流通単価(1キロ当たり)は31対策に力を入れる。国東半98円、福島第1原発事故、島宇佐地域の世界農業遺産の風評被害を受けて落ち込登録も追い風にしたい考え。んだ11年の3404円をさだ。

生産量は1990年代前半は2千トン近くあったが、景気悪化の影響で1300トンの1400トンを落ち込んでいた。近年回復した背景には、2008年に中国産の残留農薬問題などで国内産の単価が高騰して以降、シイタケを栽培する原木の伏せ込み量を増やすなど規模を拡大した農家が多かったことがあ。

減少が続いていた生産者数(12年は4240人)が、

県は本年度予算に生産量増加や、新規参入者の定着を支援する事業を盛り込入る人が増えかねない」と危機感を募らせる。

現状打開に向け、生産者団体、行政などをつくる県椎茸振興協議会は、本年度予算で生産者育成に使う

県は本年度予算に生産量増加や、新規参入者の定着を支援する事業を盛り込入る人が増えかねない」と危機感を募らせる。

現状打開に向け、生産者団体、行政などをつくる県椎茸振興協議会は、本年度予算で生産者育成に使う

県内の乾シイタケ生産量と平均単価の推移 (県椎茸振興協議会調べ)

